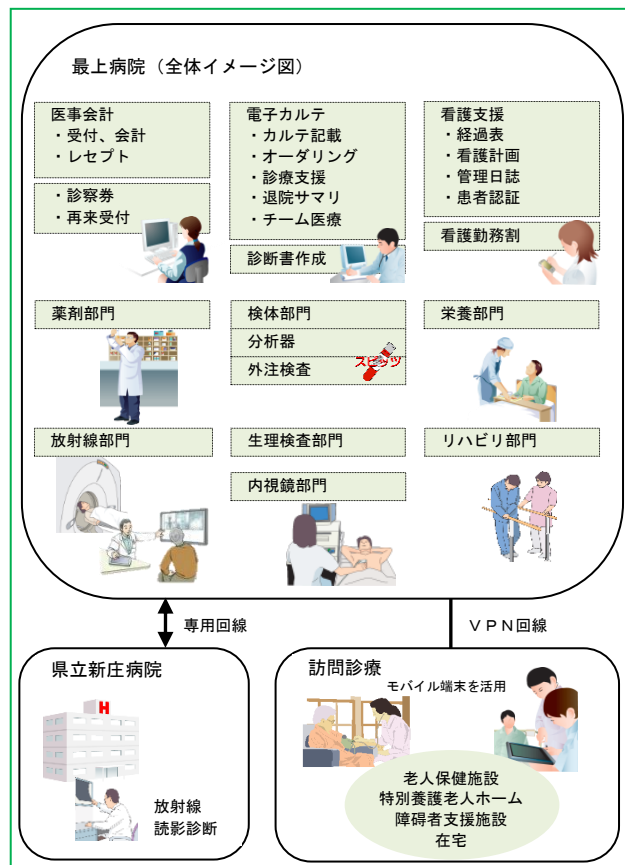


《医療》 町立最上病院で電子カルテシステム稼働（投薬ミスの防止、業務の効率化等）

【電子カルテシステム導入のイメージ】

- 最上町立最上病院が平成 26 年 9 月から電子カルテシステムを本格稼働した。
- 最上地域の公立医療機関では、県立新庄病院に続き 2 例目で、地域医療機関同士の連携がスムーズになるとともに、サービスの向上につながることを期待されている。
- これまでも当病院は、最上地域の中核病院である県立新庄病院とネットワークで接続して診療結果を閲覧できる「もがみネット」に参加し、患者に対するサービスの向上に努めてきた。
- 電子カルテが導入されたことで、「もがみネット」における中核病院との情報共有だけでなく、地域の医療機関同士で患者の情報を共有化することが容易になり、投薬ミスを防ぐなど医療の安全を確保するとともに、業務の効率化に大きく寄与すると期待される。
- また、業務の効率化により、患者の「待ち時間の短縮」につながることも期待されている。



（資料提供：株式会社 YCC 情報システム）

《医療》 べにばなネット（村山地域医療情報ネットワーク）の運用開始

【<べにばなネット>のイメージ】

- 「べにばなネット」は、村山地域の医療機関が患者の診療情報を共有する医療情報ネットワークであり、平成 26 年 10 月から運用が開始された。
- ネットワークに参加した地域の病院や診療所等は、中核病院が、患者の同意のもと開示する検査結果や、画像データ、カルテ、処方薬などの情報を、インターネット等を通じ閲覧することができる。
- 現在、山形大学医学部附属病院、県立中央病院、山形済生病院、東北中央病院、県立河北病院、寒河江市立病院、山形市立病院済生館、天童市民病院、北村山公立病院が情報開示を行っている。
- こうした医療情報ネットワークの取り組みは、中核病院と地域のかかりつけ医の連携による切れ目のない医療の提供や、検査や投薬の重複を防ぐことで医療費の負担軽減といった効果が期待されている。
- 県内では、他に庄内地域の「ちょうかいネット」、置賜地域の「Okinet」、最上地域の「もがみネット」があり、「べにばなネット」の運用開始により、県内全地域で医療情報ネットワークが整備された。

ご存知ですか？ あなたにやさしい医療情報ネットワーク

「べにばなネット」にご参加ください。

「べにばなネット」は、複数の医療機関で、患者さんの同意のもと、ICT（情報通信技術）を活用し、診療情報を共有する村山地域のネットワークのことで、病院、かかりつけ医が一体となって、切れ目のない医療サービスを提供することができます（厚生労働省のガイドラインに基づき、個人情報保護対策を講じます）。

一貫した診療！！

重複する検査や薬の処方防止！！

どんな効果がありますか？

- ① 医療情報ネットワークに参加している医療機関の診療情報を共有できるため、地域で一貫した診療が可能になります。
- ② 重複した検査や薬の処方を防ぐことができ、医療費の負担軽減につながります。

患者さんが指定した医療機関でのみ、診療情報を共有します。

べにばなネットに参加するには？

べにばなネットに参加している医療機関に「患者同意書」を提出してください。その際、患者さんご自身の診療情報を共有する医療機関を指定できます。また、べにばなネットに参加するために、患者さんが負担する費用はありません。

べにばなネット

【共有する診療情報】※

- 血液検査結果
- お薬の処方
- レントゲン、CT等の画像情報
- 診療録 など

（※）共有する項目は情報開示病院により異なります。

診療情報開示病院 | 診療所・他の病院

お問合せ先 村山地域医療情報ネットワーク協議会
(山形県村山保健所内事務局) 電話：023-627-1245
FAX：023-627-1126

（資料提供：山形県健康福祉部地域医療対策課）